

制定日 2016年4月 1日

Safety Data Sheet
安全性データシート

株式会社コベルコ科研
兵庫県高砂市荒井町新浜 2 丁目 3-1
担当部門 ターゲット事業本部技術部
電話番号 079-445-9024
FAX 番号 079-445-9025
緊急連絡先 同上

1. 品名

スズ

2. 危険有害性の要約

GHS分類	項 目	Sn
物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	分類できない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入・ガス)	分類対象外
	急性毒性(吸入・蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入・粉塵、ミスト)	分類できない
	急性毒性(吸入・粉塵、ミスト)	分類対象外
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分1(肺)
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	分類できない
ラベル要素	絵表示又はシンボル	
	注意喚起語	危険
	危険有害性情報	長期にわたる、または反復ばく露により肺の障害

GHS分類	項目	Sn
ラベル要素 (続き)	注意書き	<p>【安全対策】 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。</p> <p>【応急措置】 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>【保管】</p> <p>【廃棄】 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること</p>
	国・地域情報:	-----

3. 組成・成分情報

単一物質・混合物の区別	単一物質
化学名	すず (tin)
化学式または構造式	Sn
官報公示整理番号 (安衛法、化審法)	-----
CAS番号	7440-31-5
国連分類および国連番号	-----

4. 応急措置

目に入った場合	<p>水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>目の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>気分が悪いときは、医師に連絡すること。</p>
皮膚に付着した場合	<p>付着または接触部を石けん水で洗浄し、多量の水を用いて洗い流し、速やかに医師の診察を受ける。</p>
吸入した場合	<p>直ちに被災者を毛布等にくるんで安静にさせ、新鮮な空気のある場所に移し、速やかに医師の診察を受ける。呼吸困難または呼吸が停止しているときは直ちに人工呼吸を行う。</p>
飲み込んだ場合	<p>意識があるときは吐かせて口の中を水でよく洗浄する。直ちに医師の手当てを受ける。</p>
予想される急性症状 及び遅発性症状:	<p>吸入した場合: 蒸気とミストは肺、気道上部を刺激する。</p> <p>皮膚に触れた場合: 皮膚を刺激する。</p> <p>目に入った場合: 粘膜を刺激する。</p>

5. 火災時の配置消火剤

消火剤	特殊粉末消火薬剤、乾燥砂
使ってはならない消火剤	他の消火薬剤禁止
火災時の特定危険有害性	<p>可燃性である。</p> <p>粉末状の場合は粉じん爆発の危険性がある。</p> <p>強酸化剤と反応する。</p>
特有の消火方法	<p>消火活動は、有効に行える十分な距離から行う。</p> <p>危険でなければ火災区域から容器を移動する。</p> <p>移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。</p> <p>消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。</p>
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸装置、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏洩時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 風上に留まる。 低地から離れる。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
環境に対する注意事項:	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 環境中に放出してはならない。
回収、中和:	少量の場合、漏洩物は清潔な帯電防止工具を用いて集め、清潔な乾燥した容器に入れ、ゆるく覆いをし、後で廃棄処理する。 大量の場合、水で湿らせ、防護囲いをし、後で廃棄処理する。
封じ込め及び浄化の方法・機材:	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策:	すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い	技術的対策: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 局所排気・全体換気: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。 安全取扱い注意事項: 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 火災の場合に爆発する危険性あり、区域より退避させること。 粉碎、衝撃、摩擦のような乱暴な取扱いをしないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 眼に入れないこと。 粉じんを吸入しないこと。 ヒュームを吸入しないこと。 ミストを吸入しないこと。 スプレーを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 接触回避: 「10. 安定性及び反応性」を参照。
貯蔵	技術的対策: 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 混触危険物質: 「10. 安定性及び反応性」を参照。 保管条件: 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙。 酸化剤から離して保管する。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉して保管すること。 施錠して保管すること。 容器包装材料: 包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	-----	
許容濃度	日本産業衛生学会(2005年版) 設定されていない ACGIH(2005年版) TLV-TWA 2 mg/m ³	
設備対策	指定された防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。 高熱工程で粉じん、ヒュームが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度以下に保つために換気装置を設置する。	
保護具	呼吸用保護具:	吸保護具の使用の要求される環境下では、呼吸保護具を着用する。
	保護眼鏡:	適当な保護眼鏡もしくは安全眼鏡を着用する。
	保護手袋:	皮膚の露出を防ぐために適当な手袋を着用する。
	保護衣:	皮膚の露出を防ぐために適当な保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観等	銀白色の光沢のある、柔らかな非常に延びる展性もった金属
沸点:°C	2507°C
蒸気圧:Pa	1 Pa (1224°C)
揮発性	情報が入手できません。
融点:°C	231.9°C
比重または嵩比重	7.2
溶解度	水%(°C):不溶 その他の溶媒%(°C):
その他	-----

10. 安定性及び反応性

引火点:°C	情報が入手できません。
発火点:°C	情報が入手できません。
爆発限界:上眼% 下眼%	情報が入手できません。
可燃性	情報が入手できません。
発火性(自然発火性・水との反応性)	630 oC (cloud)、430 oC (layer)
酸化性	情報が入手できません。
自己反応性・爆発性	情報が入手できません。
粉じん爆発性	情報が入手できません。
安定性・反応性	安定性: 常温・空气中で安定。 酸素との親和力は小さく、常温の乾燥した空气中で変色しない。 200°C以下では酸化しない。それ以上で表面にSnO ₂ 被膜を生じる。 危険有害反応可能性: 強酸化剤、酸類、強塩基類、ハロゲン、硫黄等と反応する。 ハロゲンとは急激に反応し、ハロゲン化スズを生成する。 アルカリ類との反応は低温では徐々に、高温では急速にすすむ。 避けるべき条件: 粉じんの拡散
その他	混触危険物質: 強酸化剤、酸類、強塩基類、ハロゲン、硫黄等 危険有害な分解生成物: 該当しない(元素)

11. 有害性情報

皮膚腐食性・刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	データ不足。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	(呼吸器感作性)データなし (皮膚感作性)データなし
皮膚腐食性・刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	データ不足。
急性毒性 (50%致死量を含む)	経口 データなし 経皮 データなし 吸入 吸入(ガス): GHS定義で固体。 吸入(蒸気): データなし 吸入(粉塵、ミスト): データなし
発がん性	データ不足のため、評価できない。
変異原性 (微生物、染色体異)	情報が入手できません。
生殖毒性	情報が入手できません。
催奇毒性	情報が入手できません。
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露):	ICSC(2004)に、「may cause mechanical irritation to the respiratory tract.」とあるが、一般的な粉じんの物理的作用に基づく影響とみられるのでGHS分類での気道刺激性に該当しないと考えられる。
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露):	EHC15の2データにより、金属すずを扱う労働者にじん肺症がみられたことによる。
吸引性呼吸器有害性:	データなし

12. 環境影響情報

情報が入手できません。

13. 廃棄上の注意

再利用のため回収します。

14. 輸送上の注意

キズが付きやすいので落下させたり、衝撃を与えたりしないでください。

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)(政令番号 第322号)
毒物及び劇物取締法	非該当
消防法	非該当
危険物船舶運送及び貯蔵規則	非該当
PRTR法	非該当

16. その他

その他 (記載内容の 問い合わせ先、 引用文献等)	記載内容の問い合わせ先	株式会社コベルコ科研
	引用文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ACGIH発行TLVs[®] and BEIs[®]2005 ・厚生労働省:職場の安全サイト http://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/GHS_MSD_FND.aspx ・安全衛生情報センター http://www.jaish.gr.jp/ http://www.nihs.go.jp/ICSC/ 他
	改訂履歴	Rev.0: 新規制定

* 危険・有害性の情報は十分ではありません。また、本文書は安全の保証書ではありません